

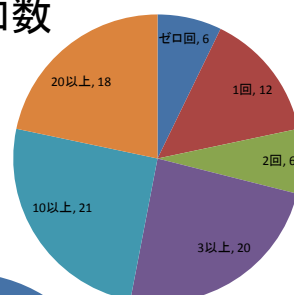
科学史学会会員へのアンケート 結果紹介

受付期間 4月18日から5月9日
 発送数 366名(未達メール数も含む)
 回答数 98名 (回収率**27%**)
 会員数(2013年4月1日現在)
 785名の**13%**

回答者の属性(1)

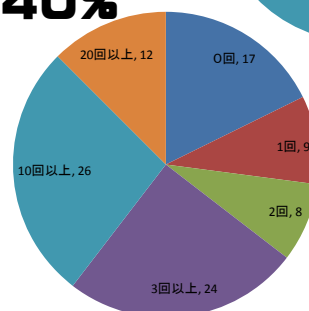
■ 年会, 支部, 分科会等の参加数

10回以上合計が**47%**



■ 総会(年1回)の参加数

10回以上合計が**40%**



回答者の属性(2)

<主たる所属学会>		<職業・所属機関>	
日本科学史学会	54	高等教育機関(非常勤舎)	49
化学史学会	3	民間企業(自営, NPO舎)	19
科学技術社会論学会	3	調査研究機関	8
日本数学史学会	2	大学生・大学院生	4
その他(複数選択無)	36	定年退職	5
		その他	3

8. 和文機関誌『科学史研究』にどのような改善を期待しますか.

高い専門性をもった論文を期待 31 (36%)

社会問題を扱った論説を期待 25 (28%)

研究入門向きの論文を期待 24 (27%)

<その他のご意見>

- 特集号があっても良い
- 分野による偏見のない編集
- ハードルが高過ぎると投稿数が減少する

9. 欧文機関誌『Historia Scientiarum』 にどのような改善を期待しますか.

科学史研究の掲載論文を海外に紹介 30

高い専門性をもった日本人論文を期待 25

高い専門性をもった外国人論文を期待 25

購読していない 5

<その他のご意見>

リポジトリ(Web利用?)で世界発信をする

海外で高く評価される雑誌を目指す

発信力のある科学史の総合誌的な性格を持つ

10. 普及委員会主催「科学史学校」な どの科学史普及活動への要望

ネットでの情報発信を充実して欲しい 30

最近の研究動向を取り上げて欲しい 29

科学史入門講座を充実して欲しい 29

地方でも実施してほしい 3

<その他のご意見>

市民向けに科学史検定のような事業

学生や一般人の興味ある情報提供の場

科学史家でない者にも役立つ研究成果の普及

普及委員会の閉鎖的体質に問題がある

11. 「科学史通信」について、どのような改善を期待しますか

会員活動紹介・意見発信を増やして欲しい	39
出版物・論文を紹介して欲しい	32
支部・分科会活動の情報が欲しい	13
インターネットへの移行	7

<その他のご意見>

会員間の活発な議論の場になって欲しい

オープンで機動性のある媒体にして欲しい

科学史で修士・博士をとることのできる大学院等の紹介

科学史通信は事務連絡に特化、記事関係は学会誌

利便性や費用の面で、『科学史研究』に統合

12. 科学史学会として取り組みを強化すべき課題についてお聞かせください。

若手研究者養成への取り組み	43
生涯教育に役立つ取り組み	35
会員向けの情報内容の充実	23

<その他のご意見>

学会として生き残っていくための広報宣伝活動

広い分野の研究者への会員勧誘

研究ポストを増やす取り組み

大学での講義のシラバスや内容の紹介

海外の学会との連携

市民向けの科学史・技術史出版物の刊行事業を推進

科学史サポータ獲得につながる活動

13. 日本科学史学会の運営全般 について, ご希望, 企画案など

< 役員のあり方 >

- 一部の人が長い間学会運営に係わっており開かれた運営という感じがしない。研究業績を求められる若い研究者にはまったく向かない学会。
- 固定したメンバーが、内輪ですべてを決めているように思われる。
- 委員の世代交代が必要だと思います。
- 若手研究者がもっと役員になってもいいと思います。

- 財政はもう少し会計事務としてよく検討して選択肢を示した方がよい。
- 会員数減は他の学会も直面している問題で、ある程度は致し方ない面がある。
- 科学史学会に所属していない科学史研究者もかなりいることに留意いただきたい。
- 類似の学会があるため、会員がかなり重なっている。科学史学会が中心となると助かります。
- 外国の科学史関連の学者は、日本の科学史活動{に期待している}方は少なくないようです。
-

＜『科学史研究』について＞

- 「科学史研究」は専門すぎて一般新聞向け報道には役立たない。
- 科学史学会誌はどうもアカデミズムの硬い専門誌で親しみが湧かない。現代感覚で科学史の有意性と魅力をもっと発揚した年誌の刊行も検討してもらえないか。
- 広い視野からの総説的な分野と専門的な分野の論説と併載されていることを望む。
- 新しい発想の論文をどんどん通してほしい。
- 学際性を維持して頂きたいと切に願っている。
- 学際的な学会を維持するつもりであれば、「別の学会誌で発表しろ」というような排他的な「査読」は見直すべきはないか。

＜魅力ある活動への期待＞

- 科学史学会の存在を知らない人が多いという現状を、変えてほしい。
- 普通の人には、魅力を感じない団体になりつつある。
- 科学史研究の面白さがつたわるような動きというか、アピールのようなことが欲しいと思います。
- 科学史の研究は、他分野の研究者や一般の人々に役立つものになっていかなければいけないと思う。ところが最近の科学史学会はそのようにはなっていないと思う。
- 一般の高校生、学部学生に、科学史、技術史に関心を持たせ、関連人口を増やす活動も行う必要があります。
- 科学史学会が一般の人々に関心をもってもらえる活動を行う学会に改革されることを期待しています。
- 科学史(技術史、科学社会学、科学技術倫理などを含む)に関心を持つ方々に会員となっていただく必要がある
- 若い研究者を引きつけるような運営を期待します。
- 若手科学史研究者および科学史ファンの養成を真剣に考えなければならぬと思います。
- 科学史学会の活性化、専門的研究と啓蒙的活動が強く結びついた研究活動が広がることに期待しています。

＜新しい企画案＞

- インターネット上の項目事典や人名辞典といった情報発信はいかがでしょう。
 - 科学史・技術史の文献(研究論文、学位論文、科研の報告書など)の電子図書館を設ける。
 - 科学史家が推薦する科学啓蒙書や研究図書など、の連載があっても面白いのではないのでしょうか。
- 年会での発表時間が、短すぎる。研究発表会と性格を変えて開催するとか、発表の機会を分散するなど、改善して頂きたいです。
- 特定のテーマで複数の発表者が発表・討論するパネル形式を、年会でもっと企画したらよいと思う。
 - 歴史学に関連する諸分野の学会と密接に交流する活動を
 - 隣接分野の方々と合同で、展示や講演などの企画を行ったらいいか。
 - 「科学史学校」を東京だけに集中せずに、関西でも実施してほしい。